INTERVIEW

仲間を大切にすること、それはイコール、自分の責任を全うすること

わたしのフェアプレー〈連載 第13回〉

（ラグビーフットボール）

五郎丸 歩

【ヤマハ発動機ジュビロ】

強く勝ちにこだわるアスリートだからこそ、フェアプレーの大切さは身にしみている。そんなアスリートたちのフェアプレーストーリー。

ごろうまる・あゆむ　1986年、福岡県福岡市生まれ。3歳からラグビーを始め、佐賀工業高等学校、早稲田大学を経て、2008年、ヤマハ発動機ジュビロに入団。高校、大学時代でいずれも日本一に輝き、ことし2月の日本ラグビーフットボール選手権では、ヤマハ発動機ジュビロを創部33年目で初の日本一に導いた。'05年日本代表初デビュー。185㎝、95kg、ポジションはFB。

フェアプレイで日本を元気に
あくしゅ、あいさつ、ありがとう

……早くから異彩を放ち、大学時代には日本代表デビュー。先の日本選手権では、たぐいまれな精巧なキック、そしてチームの砦（とりで）であるFB（自陣最後尾のポジション）として体を張ったプレーでヤマハ発動機ジュビロを創部33年目にして初の日本一へと導いた。

兄の背中を追いかけ、3歳でラグビーを始めました。そのまま小4まで打ち込み、小4から3年間はサッカーに熱中。そして中学に入り、道を二本に絞らなければならなくなり……。ラグビーのボールは楕円形（だえんけい）で、どこに転がるかわかりません。ですが、僕はそれが楽しかった。迷わずにラグビーを選びました。

逃げることは簡単 仲間のために体を張る

ラグビーの世界においてフェアプレーは、特に日本では重視され、最低限守らなければならないことです。〝ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン（一人は皆のために、皆は一人のために）〟という言葉がラグビーにはありますが、人の役に立つことの大切さを学生時代から常に言われてきました。

競技性もあると思います。80分間、15人対15人で戦う。人と人が激しくぶつかり合う。僕はスポーツのなかでラグビーは特にハードな競技だと思っています。もちろんお互い勝ちたいですから、自然、ぶつかり合いは激しさを増します。ゲームのなかでは苦しい時間帯もたくさんあります。でも、苦しいなんて誰も口にしない。逃げることは簡単ですが、チームのため、仲間のために体を張る。

そもそも、タックルなど格闘技のような激しさがありますから、ルールを無視すれば、もうケンカです（笑）。国際試合では、時にはつかみ合いになるなど、熱くなる場面はもっともっとある。ただし、それもグラウンド上だけのこと。ノーサイドの言葉どおり、試合が終われば敵も味方もありません。むしろ、激しくぶつかり合った相手のほうが、逆に仲よくなったりもします。ふだんの生活でもそうですが、ぶつかり合わなければわからないこともありますから。

……とはいえ、時には自分よりも大柄な相手にも向かっていかなければならない。恐怖はないのか。

写真／金子 洋

日本選手権決勝でもサントリー選手（左）相手に果敢なタックル（写真／アフロ）

昔は怖かった（笑）。でも、今はチャレンジする気持ちのほうが強いですね。グラウンドに立てば15分の1。自分が行かなければチームに迷惑がかかります。気持ちの強さは必要ですが、不思議とできるんですよね。私生活では見返りを求めたりもしますが、ラグビーでは無心になって犠牲になれる。自然に体が反応する。それがスポーツのよさだと思います。

そうして体を張り、トライ（得点）の瞬間が生まれる。自分だけでなく、周りの選手も役割を果たして一つになる、あの瞬間は何とも言えません。

練習に行きたくないと思ったのは一度や二度ではなかった

仲間を大切にすること、それはイコール、自分の責任を全うすること、僕はそう思っています。うわべだけではない。体を張るのはつらい仕事ですが、仲間を思うからこそフェアプレーが必要ですし、つらい練習にも耐えられる。

学生時代、きつい練習に、行きたくないと前の晩から思ったことは一度や二度ではありません。ですが、仲間がいて、日本一になりたいという気持ちがあって、だからグラウンドに向かい、練習にも耐えられた。仲間が支えてくれるから……。自分一人では、とてもできません。

……そしてこの2月、社会人として初の日本一の栄冠。

勝ちたい気持ち、それがいちばんヤマハは強かったと思います。会社がリーマン・ショックの影響を受け、2009年に強化縮小を余儀なくされ、多くの仲間がチームを離れていきました。それでも残ったメンバーで戦い続けましたが、'10年度には下部チームとの入替戦も経験しました。そうしたことを乗り越え、ここまできました。僕たちも苦しかったけど、ファン、地域の支援者、そしてスタッフが変わることなく支えてくれた。そうした皆さんに、勝つことで恩返ししたかった。

戦術うんぬんではなく、試合前にミーティングなどしなくてもみんなが一つになれた。こんなこと初めてです。数々の苦しみを乗り越えたからこそ、チームと地域の皆さん、ファンが、あのスタンド（秩父宮ラグビー場）で一体となり優勝できた。学生時代、日本一の経験は何度か味わいましたが、比較になりません。あんな一体感を感じたのは初めてのことです。

「これからは追われる立場。今まで以上の努力をしていかなければ、すぐに追い抜かれる」と早くも次も見据えている五郎丸歩選手

100%やり切ること その先に夢はある

僕にとってラグビーは最高のものです。競技を通じてさまざまな人に出会え、いろいろな思いをさせてもらいました。'19年には日本でワールドカップがあります。世界最高峰の大会に出たいという夢を持つ子どもたちがいることでしょう。その思いを強く持つこと、そして、自分の思いに対して100%やり切ること。その先に夢は現実として待っている、そうアドバイスしたいですね。

僕がラグビーを通して得られた素晴らしい体験を、夢ある子どもたちにも、ぜひ味わってほしいと思います。SJ

フェイスブックもご覧ください！

「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンのフェイスブックを開設しています。皆さんぜひともアクセスのうえ、フェアプレイ宣言をお願いします。

》 https://www.facebook.com/JASA.fairplay/

\フェアプレイで日本を元気に/

キャンペーン・ホームページ
パソコンで →→→ フェアプレイ 検索